

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)				
<p>めまぐるしく変化し複雑で予測困難な社会の中で、時代が求める「学び」への取り組みを進め変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。豊かでたくましい人間性を育み、キャリア教育を充実させる。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成</p> <p>◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進</p> <p>◎知識・技能に加えて学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進</p> <p>◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む</p> <p>◎情報や情報技術、ICT機器について深く理解し、自らの学びに取り入れる。また情報技術、ICT機器を活用した校務のDX化(デジタル・トランスフォーメーション)を推進する。</p> <p>◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社</p>	<p>・スクールミッション、スクールポリシーにより、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・新学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用を基盤とし、一人一台端末の効果的な活用をさらに進めるために、各教科が連携して取り組みを推進する。加えて、教科の枠を超えた教材の研究や研修を深化させ、ICT教育のみならず、教育現場全体のDX化(デジタル・トランスフォーメーション)を図り、生徒一人一人の学びの質を向上させる環境を構築する。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的な生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的でわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p> <p>・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践のため、地元地域の力を生かし、今年度</p>	<p><b>◎時代が求める「学び」への取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的学びへの高いモチベーションの構築</li> <li>・対話的学びへ向けたコミュニケーション能力の向上</li> <li>・「深い学び」及び「個別最適な学び」に向け、ハイスペックPC等ICT機器を整備・活用した教育活動を充実させ、教育のDX化(デジタル・トランスフォーメーション)を推進する。</li> <li>・学力に応じた手立てと指導の工夫</li> <li>・規律ある学び風土の醸成</li> </ul> <p><b>◎豊かでたくましい人間性の育み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己有用感やコミュニケーション力を向上し、他者を思いやり良好で発展的な人間関係を構築する力を身につける</li> <li>・行事等を通して非認知能力を育み、人格形成を図る</li> <li>・学校生活全般における生徒の主体的参加の推進</li> <li>・部活動の積極的参加と体験活動の充実</li> <li>・地域、保護者とともに、次代の社会を築き、守り、担う人材(生徒)を育てる</li> </ul> <p><b>◎キャリア教育の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・汎用的能力の育成を踏まえたキャリア教育の計画・実践</li> <li>・3年間を見通した組織的・系統的なキャリア教育の構築と実践</li> <li>・地元地域の力を活かしたキャリア教育の推進</li> <li>・インターンシップ教育の実施</li> </ul>				
評価領域	重点目標	具体的方策		評価	成果と課題	
	<p>生徒が卒業後、社会で活躍するための基礎力を身につけさせる。特に、自分の思いを表現できると同時に、相手との言語による円滑なコミュニケーションができる力をつけさせる。</p>	<p>持参物や学習方法、家庭学習等、すべきことを明示する。またそれらを、授業内での確認や小テストで適切に評価することによって、日々の授業を大切に、当たり前のことを当たり前に行う態度を育成する。</p> <p>生徒の学力実態、進路希望、将来のキャリア形成等を念頭に置いて教材の選定を行い、生徒の興味、関心を喚起する。また、講義形式の授業だけでなく、プリント学習、グループ学習、自学自習、教え合い、発表等を適宜取り入れることで、伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p>	<p>B</p> <p>C</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>3学年とも、「当たり前のことを当たり前に行えるようにする」という指導を意識しながら授業を行った。1年生については、中学校からの意識が根強く残っている生徒が多いことを中間評価時に課題として挙げていたが、学習指導を重ねる中で、高校生としての学習の基盤が徐々に定着してきたように感じる。審査前には、生徒同士で試験範囲の内容を教え合う姿も見られ、学習への取り組み方が全体的に改善している。1・2年生には、進級を機に自身の希望進路を明確にするとともに、目標や目的意識を持って学習に取り組めるよう、今後も継続して指導していきたい。</p> <p>授業の形式については、講義形式だけでなく、グループワークや発表、パフォーマンス課題などを学習内容に応じて適宜取り入れるよう心がけ、読む活動・聞く活動のみで終わらない授業展開を目指した。2年生の国語演習では、文章の基本的な型の習得に加え、まとまった文章を書くための練習を行うなど、作文指導に力を入れた。3年生では学年末にスピーチ発表を行うため、書く活動・話す活動にも重点を置いて指導した。</p>	
<p>地歴・公民科</p>	<p>探究活動を採り入れながらも基礎基本の定着を図る授業を行うとともに、観点別評価をもとに個々の力を伸ばさせる指導を行う。授業内容とリアルな事象とを関連づけることによって、よりリアルな社会とリンクした物事の見方・考え方や、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。また、一人の主権者として、さらに、未来の有権者として、社会に主体的に参画しようとする態度を育む。</p>	<p>地理・歴史・公民分野の各科目における授業内容を精選し、生徒が主体的に授業に参画し、探究的な活動を通じて、学習内容をより深く理解することができるような授業を展開する。具体的には、時事問題や、生徒が身近に感じることができる事柄とリンクさせ、リアルさを実感することから学習へのモチベーションの向上に繋がるよう授業を行う。学習上課題がみられる生徒に対しては、学習の仕方を具体的に示し計画を立てさせるなど、主体的な学びに繋がられるよう個別に適切な支援を年間を通じて行う。</p> <p>多様な史・資料や、視聴覚教材、ロイロノート等のツールを用いて、幸せな人生を構築するために必要な、社会的な見方・考え方を地理的、歴史的、公民的な視点からそれぞれ身に付けさせる。現代社会における諸課題を学習し、それを解決するために必要な知見について探究的な活動を通して学習させる。また、プレゼンテーション力を身に付けさせるために、各科目の特性に応じて、個人またはグループによる発表、ディベート等を採り入れ、他者の考え方にふれたり、自らの意見を他者に伝えたりする経験を積ませるとともに、主体的に物事を考える力を醸成する。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>生徒が将来幸せな人生を自ら構築していくために求められている社会的な見方や考え方を、各科目の特性に応じて、授業や取り組ませる課題を通じてどのように身に付けさせれば良いかについて、担当者間でコミュニケーションを図り試行錯誤を繰り返しながら授業を行うことができた。本校では、探究活動を行うために必要不可欠な語彙力や価値観が身に付いていない生徒も多く、主体的・対話的で深い学びを実現していくために必要なスキルをいかに醸成するかが重要な課題である。しかし、そのような中で、授業で提示した文字や写真等の諸資料を通じて、授業の主題を主体性をもって捉えさせ、他者と意見交換を行ったり、意見を文で表現させる活動に取り組ませることができた。進学補習では、社会系科目の学習方法を具体的に示すとともに、日本史と世界史は入試問題の演習を行った。成績不振者に対する指導では、指導に乗らない生徒や課題を提出できない生徒も一定数居る状況であった。このような生徒に対しては、粘り強く声を掛け続けるとともに、課題に取り組む時間を設定して指導し、学習に向かおうとする態度を評価に加味するなど、生徒一人一人の課題に応じた丁寧な指導を行った。</p>	
<p>数学科</p>	<p>授業での基礎基本の定着を図りつつ、個に応じた指導を行う。また、ICT機器を用いるなど指導の工夫をする。</p>	<p>1年生では、習熟度別授業を行う。数学が得意な生徒は伸ばし苦手な生徒にも手厚くサポートをする。それぞれの進路実現に向けて授業展開をする。合わせて教科会議で生徒に関する情報共有をして、よりよい教科指導を行う。</p> <p>授業改善の中でICT機器を使う良さと紙を使う良さを考え、場合に応じて使い分けをする。指導の工夫を教科内でも共有していく。</p>	<p>B</p> <p>C</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>1年生では習熟度別授業を行っている。少人数で開講している講座がある。そのため、細かく指導するとともに、発展講座ではより高度な学習を進めていく。授業の進行状況だけでなく、生徒の情報も適宜交流を行っている。審査前学習会や夏休み中の補習も実施し、数学が苦手な生徒へのサポートを行っている。文系の希望生徒を対象に、放課後の時間を活用して個別講習を実施した。審査前学習会には、部屋数を増やして、少人数で行うことができた。多くの先生方にご参加いただき、生徒に対して手厚い指導を行うことができた。</p>	

理科	社会を担う人材として、基礎学力の定着と向上を図り、主体的に考え学ぶ態度や課題解決能力を育成する。	<p>基礎学力の定着・向上を図るために、日々の授業規律の確保や向上に努め、ロイノートなどのアプリやICT機器を効果的に活用することで、生徒の興味・関心を喚起して積極的に学習に取り組ませる。また、生徒の日々の学習状況について小テストやノートのチェックなどより細かく確認し、情報共有を行って課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。</p> <p>実験・実習を通して、生徒が実物に触れたり、体験的に学んだりする機会を確保するなど、生徒の主体性を引き出す工夫を行う。また、授業内で生徒同士が積極的に対話や議論する場面を設定して、生徒のコミュニケーション能力や論理的思考力のさらなる向上を目指すとともに、課題解決能力の育成に繋げる。</p>	C B	B	<p>生徒の状況をこまめに確認しつつ丁寧な指導を進めたことで、一部の生徒ではあるが基礎学力の向上を少しずつだが図れたと思われる。</p> <p>ICTの活用により体験的に学ぶ機会を補っているものの、生徒の学力差が大きく、不十分なままである。従って積極的な議論や論理的な思考の向上につながるようなアプローチが難しく、目標にはほど遠い状況であった。だが、今後につなげるためにも工夫をしながら取り組みを続けていく必要がある。</p> <p>最近、課題における安易な生成AIの使用が見られるようになった。利用した方が良い課題、利用しない方が良い課題があると考えられるので、課題の内容によって利用のさせ方を吟味していく必要があるだろう。</p>
保健体育科	<p>・心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を目指す。また、自らの健康や環境を適切に管理し、改善していく能力の育成を目指す。</p> <p>・主体的・合理的・計画的で深い学びを目指した授業を行う。</p>	<p>・運動やスポーツに対して、「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方があることを理解させ、多くの運動・スポーツの中から自分に適した種目を選択し、生涯を通して主体的に運動・スポーツに親しむ基盤を育てる。</p> <p>・ICT機器を活用し、自己や他者の運動動作を確認することにより、自己または他者の課題を見つけ、改善・修正ができる一助となるよう育成する。</p> <p>・グループ活動を通して、コミュニケーションを図り、自己の役割を責任をもってやり通す力を身につけさせる。また、授業を通して、協働することの大切さを学ばせる。</p> <p>・ヘルスプロモーションの考え方を踏まえて、個人の適切な意思決定や行動選択が生涯の健康づくりに関わることを意識させ、生徒が実生活に生かせるよう育成する。</p> <p>・課題学習を通して、調査・研究・発表をさせる。発表の際には、生徒のコミュニケーション能力やICT機器を活用したプレゼンテーション能力を身につけられるように指導する。</p>	C B	B	<p>・主体的に運動やスポーツに取り組み、学習カードの活用により自己評価を通して課題意識を持てるようになった。また、仲間との協力により技能向上に向け工夫を凝らす姿勢がみられた。</p> <p>・一方で技能差が大きく、自信をもって取り組むレベルに達していないと感じ、各スポーツの醍醐味を存分に味わうことができていない。</p> <p>・欠課時数で、1/5overの生徒が多く見受けられる。</p> <p>・健康や体力の保持増進について理解を深め、運動の必要性を考えられるようになった。また、プレゼンテーションや発表活動を通して、自分の考えを整理して他者に伝える事ができた。</p> <p>・課題には、知識としての理解に留まり、実際の生活習慣に必ずしも結びついていないことがあげられる。</p>
芸術科	芸術各科目の幅広い活動を通して、各科目の見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成できるよう、指導方法の工夫改善を行う。	<p>感受する豊かな心と表現する力を育て、生徒一人一人が内発的動機に基づいて主体的に学び、教科目標を達成できるように、生徒の実態に応じた教材開発と研究及び指導の工夫を行う。教科会議で情報共有を行い、生徒の状況と指導方法の改善、教科連携に生かす。</p> <p>表現及び鑑賞の活動を通して、学習内容の基礎基本の定着と活用を図るとともに、本物に触れ感じ取らせる場面とICT機器を活用する場面について吟味し、生徒がより効果的に深く学べるよう授業研究を進める。</p>	B B	A B	<p>・芸術科各科目において、本校の生徒の興味や関心に応じたより効果の高い授業実践を考え、実践を進めた。</p> <p>・美術では、タブレットを活用し、途中段階の指導と評価に役立てることができた。また、班活動による対話的な学びを題材の効果的な場所に配置し、学習を効果的に進めることができた。外部講師の招聘や、ポスターコンクール応募によって生徒の意欲向上と視野の拡大を図った。</p> <p>・美術と工芸では、生徒作品を校内に展示し、主体性の向上や鑑賞能力の向上等を図り、落ち着いた学習環境をつくり、授業外での鑑賞環境の創出や学習意欲向上等の効果があった。また、各課題で何度も補習を設定し、やり抜く力や学習の定着を図るとともに、よりよい表現をめざして主体的に粘り強く学習に取り組む姿勢を高めることができた。</p> <p>・音楽では、本校生徒の現状に応じた新たな教材の開拓、及び作成を行うとともに、3年生の保育幼児教育系進学決定者に対して、2月にピアノ初心者講座を実施し、進学に向けた準備の支援をすることができた。</p>
外国語科 英語	あらゆる生徒に対して、基礎・基本を大切にしながら4技能・5領域をバランスよく伸ばすことを目指し、「覚える」よりも「考える」「理解する」ことを意識して教材・授業法・評価方法を改善する。また、パフォーマンス課題などの、アウトプットを中心とした活動を取り入れ、英語を「使う」場面を増やす。	<p>1年生については、学び直し教材を通して基礎・基本を身につけさせる。英語を苦手とする生徒に対しては、つまずきの原因を早めに明らかにし、適切な働きかけを行いながら単位認定を目指す。また、AIに頼った英訳や日本語訳をするのではなく、辞書等を適切に活用する指導を行い、考える力を伸ばす。そして、生徒の関心や意欲を高める様々な工夫をしながら、個々の進路実現につながる授業や補習を実施する。</p> <p>4技能をバランスよく伸ばすことを目指すとともに、英語を使って思考力や判断力を育み、主体的な学びに繋がるよう、パフォーマンス(音読・スピーチ・自由英作文・情報の読み取り等)を取り入れた授業や評価に取り組む。生徒が英語を使うモチベーションを高めるために、単元のまとめや活動・行事のまとめとしてパフォーマンス課題を設定する。</p>	B C	B C	<p>1年生は1学期に学び直し教材を学習する時間を充実させた。2学期以降は、パフォーマンス課題を数回取り入れ、定期考査以外での学習評価の機会を増やした。しかし、パフォーマンス課題を実施することとどまってしまう、英語力の定着まで及ばなかったため、次年度以降はパフォーマンス課題を通じて学力の定着につなげていきたい。</p> <p>2年生は文法の定着と基本的な英単語の習得に時間を割いた。その結果、文構造を意識して読む姿勢が身につくにつれ、受験モードに切り替えて主体的に学習する生徒もみられた。一方で、基礎的な単語が十分に定着していない生徒もあり、次年度以降は小テストを継続的に実施し、基本的な語彙の定着を図りながら学力向上に努めていきたい。</p> <p>3年生は英語が苦手な生徒にも手厚い授業を展開するとともに、進路補習を3講座実施し、生徒の進路実現に寄与した。</p> <p>1年間を通して、各学年で英語に苦手意識を強く持つ生徒への支援や手だてを実施した。また、2学期以降はパフォーマンス課題を取り入れた。今年度は、パフォーマンス課題に取り組む際に生徒自身が作成した英語を添削するために翻訳機能を使うことで、ただ単に翻訳するのではなく、生徒が思考を働かせながら翻訳機能を使うことができるという、新たな方策を得ることができた。次年度以降はこれを定着させ、生徒がAIをうまく使えるように指導を続けていきたい。</p> <p>英語検定においても、1年を通じて一定の受験者を確保することができ、二次試験の指導まで行った。</p>
家庭科	実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。授業規律を確保し、授業や学びの環境づくりを大切にする。日々の授業を主体的に学ぶ姿勢を育む。	<p>・生徒が授業で学んだことを自身の生活に反映することができるような学習課題を策定する。</p> <p>・グループ学習や発表会、講演会において、さまざまな人の意見を聴き、多様な価値観にふれ、自分らしい生き方について考えさせる。</p> <p>・調理・被服製作・保育などの実習において、教材や指導方法を工夫し、知識・技能の定着と向上を目指す。</p> <p>・保育技術検定3級合格率100%を目指す。</p> <p>・授業プリントやレポートに確実に取り組ませ、提出を徹底させる。</p> <p>・授業の始まりと終わりの挨拶・授業中の態度・身だしなみ等の指導を徹底し、落ち着いた学習環境づくりに努める。</p> <p>・実習時の服装・身だしなみ、タブレットのルール、衛生安全面についての授業規律について確認させ、周知徹底する。</p> <p>・生徒自身が考えて学習に取り組める内容のワークシートを作成するとともに、意欲的な学習姿勢を持続させられるよう指導方法を工夫する。</p>	B C	B C	<p>・生徒が授業で学んだことを自身の生活に反映できるよう、具体的かつ身近な実例をとりいれた学習課題の作成を心掛けた。さらに、知識の定着の向上を目指した工夫を付加していきたい。</p> <p>・講演会を企画し、専門家の意見を聴き、自分らしい生き方について考えさせる機会を設けた。講師の熱意が生徒の心に響いたことが、レポートの中に多く記載されていた。</p> <p>・調理・被服製作実習では、生徒の生活経験の中から身近な課題を選定し、知識・技能の定着と向上を目指した。多くの生徒が熱心に取り組む、体験的な学びの重要性を再確認した。</p> <p>・保育技術検定3級合格率は90%と、昨年度よりも向上したが、準備期間に欠席をした者の不合格が目立った。</p> <p>・タブレットのみを使用する授業から、紙プリントとタブレットを併用した授業に切り替え、タブレットの使用ルールの遵守の面で一定の成果を得た。</p> <p>・授業の始まりと終わりの挨拶・授業中の態度・身だしなみ等の指導、授業プリントやレポートの提出率の向上に努めた。今後も継続課題として取り組みたい。</p>

情報科	授業規律を大切にし、生徒が落ち着いて学べる学習環境を整えるとともに、実践的・体験的な学習活動を通して「深い学び」を実現する。発表や相互評価を取り入れながら、生徒同士が互いに高め合い、情報社会の中で主体的に行動できる力や生き抜く力を育てる。	授業の開始・終了時の挨拶や、身だしなみ、指示を聞く姿勢、自習への取り組み方など、基本的な学習態度を丁寧に指導する。生徒自身が「落ち着いて学ぶことの大切さ」を自覚し、主体的に良好な学習環境を作っていけるよう指導する。	B	B	A	授業開始・終了時の挨拶や身だしなみについてはおおむね定着し、多くのクラスで落ち着いた雰囲気の中で授業を開始することができた。生徒自身も、良好な学習環境づくりへの意識を高めてきており、積極的に実習に参加するようになった。2・3年生の選択授業では、習得したスキルを活かして検定試験に合格することができ、生徒の学習意欲や自身のスキル向上にもつながった。2年生はその力を活用し、年間を通して複数のコンテストに出品することができた。3年生はデータ分析や情報整理を扱う出前授業を実施することもできた。情報探求の授業では共通テストを受験する生徒はいなかったが、より専門的な知識を身につけることができた。これらの取組を通して、基礎的な学力の定着だけでなく、協働的に課題へ向き合う態度や、将来を見据えて学び続けようとする姿勢の育成にも一定の成果が見られた。今後も指導内容の改善と環境整備を継続していきたい。
		情報活用の授業では、習得したスキルを活かし検定試験に合格させる。情報演習では、データの分析や情報整理の方法を学び、探究的な活動を通して社会に貢献できる視点と実践力を育てる。	B	A		

評価の基準 A:十分達成できている、(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者 評価委員会 による評価	<p>各教科において、生徒の実態を踏まえた多様な指導の工夫がなされており、基礎基本の定着を重視しながらも、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組が着実に進められている点は評価できる。特に、グループワークや発表活動、パフォーマンス課題の導入などにより、生徒の表現力や思考力を育成しようとする姿勢が各教科に共通して見られる。</p> <p>また、ICT機器の活用や体験的な学習活動の充実、個に応じた丁寧な指導など、生徒の多様なニーズに対応しようとする取組も進んでおり、教育活動の質の向上に寄与していると考えられる。</p> <p>一方で、教科によっては学力差への対応や学習意欲の向上、学習習慣の定着に課題が見られるほか、主体的な学びを支える基盤(語彙力・基礎学力等)の育成についても継続的な取組が求められる。また、ICT活用やパフォーマンス課題については、実施にとどまらず、学力の定着や資質・能力の向上につながるような工夫と検証が必要である。</p> <p>総じて、各教科の取組は前向きに進展しており、今後は教科間の連携や実践の共有を通して、学校全体としての教育力のさらなる向上が期待される。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習習慣の定着のため、1年次から「学習と進路の関係」を明確にする系統的指導を行い、学年部・教科・進路指導部が共通認識をもった学習量・学習姿勢の基準づくりを行う。</li> <li>・1年次早期から希望進路別の学習モデルを提示するとともに、学習集団の在り方を再検討する。また1年次の職業体験を核としたキャリア教育をさらに充実させて体系化をはかり、希望進路を実現させる。あわせて社会貢献の意識を養う。</li> <li>・キャリア教育(Be-Happy)では、今年度から1年次で職業体験を実施した。次年度は2年次でアントレプレナーシップ教育を実施し、地元企業と更に連携して、生徒の主体性や創造性、困難に挑戦する姿勢を養う。</li> <li>・ICTを活用した「学習の見える化(記録・振り返り)」の徹底を行う。</li> <li>・ICT活用・DX推進について、授業でどのように使うかへの段階的研修を行う。</li> <li>・効果的な広報活動の在り方の検討を継続し、中学生・保護者が本校の特色を理解した上で選ばれる学校づくりをすすめる。</li> <li>・「働き方改革」をさらに進めるため、生成AIを効果的に活用するとともに、各分掌の業務を精選し、さらに業務改善を進める。</li> </ul>